

第8回千葉活性化サロン

テーマ「東京2020オリ・パラから千葉の活性化へ～レガシーの活用～」

◇ 令和元年6月4日開催

◇ ゲストスピーカー 藤田 善三 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 アクション&レガシー担当部長
「東京2020大会の開催概要・準備状況について」講演概要

1. 大会概要について

- アクション&レガシー部では、後述の「参画プログラム」を活用し、オリンピックの機運を盛り上げるためのアクションを、外部に対し一緒にやっていると働きかけ、活動を記録し、大会のソフト面でのレガシーを残すという役割を担っている。職員の全体構成は、約3割が都庁からの出向者、その他は国や自治体、大会パートナー企業からの出向者、契約社員などとなっている。
- 東京オリンピックの大会ビジョンは、「スポーツには世界と未来を変える力がある」とし、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の3つの基本コンセプトを掲げ、「史上最もイノベティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする」ことを目標に掲げている。
- 競技会場は、1964年の東京大会で使用し、そのレガシーを引き継ぐ「ヘリテッジゾーン」及び、都市の未来を象徴する「東京ベイゾーン」の2つ。東京都外の会場として、千葉県では幕張メッセと釣ヶ崎のサーフィン会場がある。

2. 機運を高めるための取組み

- 5月よりチケット抽選販売の開始、聖火リレールート決定・ランナー募集、各種イベント開催など徐々に機運醸成を図っている。チケット購入のためのID登録は当初200万件を目標としていたが、結果約751万件の登録があった。今秋に先着順販売、来年には直前期販売の機会があり、今後リセールサイト設立も予定しているため、ぜひ購入いただきたい。聖火リレーはプレゼンティングパートナーの4社が先行して6月から募集を開始し、7/1からは各都道府県の聖火リレー実行委員会が募集を開始する。地方公共団体の約半数である857市区町村を巡るルートとなっており、千葉県は7/2～7/4のスケジュール。また、2020年4月以降は公式文化プログラムである「東京2020Nipponフェスティバル」を展開し、日本文化の発信や交流を図っていくことで、機運の最大化を目指す。

3. 東京2020参画プログラム

- 認証を受けた団体が、ロゴマークの使用により大会を盛り上げていき、その活動を記録に残すことでソフトのレガシー化を図っていくプログラム。「公認プログラム」と、「応援プログラム」の2種類があり、公認プログラムには大会エンブレム入りのマークが使用可能。様々なステークホルダーが連携して参加するような機会を創出し、情報発信を通じて申請団体の知名度向上に貢献しながらレガシーをつないでいく、ということを目的としている。オリンピックに関する知的財産権をIOCが所有しており、レギュレーションが厳しいが、公認プログラムでは大会エンブレムや「東京2020」というフレーズを事業名に使用できる。2019年3月現在9万6,700件の事業等を認証しており、参加人数では延べ7,000万人を超えている。
- アンブッシュ・マーケティング(ロゴマークの不正使用等)の防止のため、オリンピックに関するプログラムは大会パートナー以外の企業が協賛するものについて認証が難しい状況にあるが、相談いただければガーランド、うちわや法被などのグッズもあるので、お祭りでの機運醸成にご協力いただきたい。